



## 「子供たちの可能性に期待」

猛暑の中、子供たちは「運動会」というチャレンジの場に向かって、様々な思いを抱えながら練習を重ねてきました。

運動が得意な子もいれば、苦手な子もいます。運動会を楽しみにしている子もいれば、本当はあまり楽しみではない子もいます。

競争すると、必ず順位がつきます。1番になったら嬉しいけれど、1番になれなかったことで悔しい思いをする子もいるわけです。人は、運動に限らず、人生のどこかで必ず同様の経験をするのを、私たち大人は知っていますが、子供たちは知る由もありません。

子供たちには、勝ったときの心構えと負けたときの心構えをもってほしいと思っています。かつて出会った子供がこんなことを話していました。

「失敗は成功のもととよく言うけれど、ぼくは、成功は失敗のもとと自分に言い聞かせている。うまくいっているときこそ調子に乗らず、しっかりと目標をもって次からもうまくいくように、自分に厳しく努力していくことが大事。」

何事も順風満帆に見えたこの子の言葉に、成功の陰にはこんな思いがあったのかと心打たれ、今でも忘れることはできません。そんな心構えを持てたとしたら、たとえ思うような結果が出なかったとしても、やり抜いた自分を認めることができて次のステップが見えてくるのだと思います。

運動会では、全ての子供たちに、仲間が全力で取り組む姿をしっかりと見届けてほしいと願っています。そして、競技の後に、最後までやり抜いた自分のことを「よくがんばった！（自分、けっこういいね）」とほめてほしいと願っています。

保護者の皆様、地域の皆様、全てのよつばっ子のがんばり抜いた姿に賞賛の拍手を送っていただければと思います。

## 「子供たち（卒業生）から教えられたこと」

昨年度の6年生が卒業アルバムに寄せた思い出作文を紹介します。子供たちは、運動会を通してこんなにも多くの大切なことを学んだのだなと感動し、いつか紹介したいと胸にしまっていました。

バトンはつながっています。

優勝しなかったけれど、これまでみんなでやったことを思い出すと、全然悔しくなかった。これがみんなで練習することの大切さだと知った。

運動会を通して、チームワークとあきらめない大切さを学んだ。仲間のありがたみを忘れず、がんばっていきたい。

本番で力を発揮するには、真剣な練習を積み重ねることが大切だと思った。仲間がいたから乗り越えられた。

友達がいれば、できなかったこともできる気がした。

失敗したとしても、あきらめず、自信をもって挑戦していくことが大切だと気付いた。

雨の切れ間をぬって最後の応援練習を行いました。気迫あふれる子供たちの姿に本番前から涙が出そうになりました。今年も、きっと子供たちの成長が見られる運動会になると信じています。

